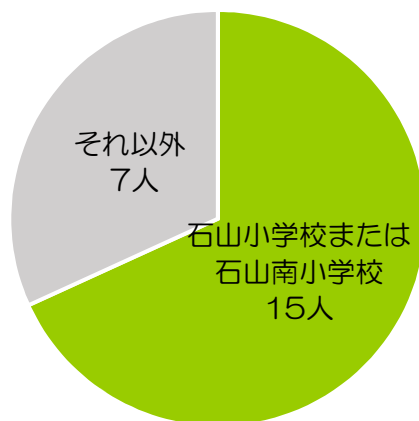


石山緑小学校における  
「新しい小学校になったことについてのアンケート」

教員 結果

【質問1】 石山緑小学校に勤務される前の学校はどちらですか。

<択一回答>



【質問2】 (児童の様子の変化について)

石山緑小学校が開校して、9か月が経過します。旧石山小学校・石山南小学校当時や、開校当初と比較し、児童の様子はどのように変わりましたか。良い点や今後配慮を要すると思われる点等について、お答えください。

児童の様子・生活面や学習面に関すること

- 子ども同士の間関係の範囲が広がり、人との付き合い方にバリエーションが増えた。
- 1学級あたりの人数が多くなり、騒がしい雰囲気強く抵抗感を覚える子が増えた。
- 子どもたちはすぐに仲よくなった様子だった。
- 気持ち的に落ち着かなかったのか、統合後数か月は体調不良を訴える子もいた。
- 新しい校舎になったため、行動面で落ち着きがなかった。
- なかなか新しい環境になじめず、登校に前向きになれない子もいた。
- 「石山小」「石山南小」といった意識はなくなった。「石山緑小を創る」という大きな目標のもとで、学年で活動を進めたことが功を奏したように思う。新旧どちらの仲間とも活動できるようにし、選択を子どもに委ねていたのもよかったと思う。
- 開校当初は、子どもたちは喜びの一方で緊張もしていた様子だったが、学校の雰囲気にも慣れ、少しずつ落ち着いて生活できるようになった。
- 学校に慣れ、挨拶の声も大きくなってきた。

- 最初は、(両校出身の)互いの頑張りを認めあい、高め合おうという雰囲気は自然とできていた。半年が経つ頃には、慣れによる友人関係のトラブルや生活面の乱れなどが目立つようになり、指導が増えた。そこから少し落ち着き、学級・学年としての高まりはこれからたくさん見られそうだ。
- 石山小、石山南小と分かれることなく、みんなで仲良く活動している。
- 少しずつ慣れてはいるものの、教室がオープンになり、集中力の持続が難しい子が増えた。
- 遅刻する子が増えた。
- 新しい環境にはもう慣れ、落ち着いて生活することができている。石山小出身石山南小出身という気持ちもなくなり、1つの学年集団として仲良く助け合って生活する姿が見られる。
- 開校当初に比べると、学校にも慣れ、友人関係も広がってきた。
- 4月から築き上げてきた授業のスタイルにも慣れ、集中して学習に向かえるようになった。
- 1クラスの数が増えたことや、メンバーが新しくなったことで戸惑う様子が1学期の間は続いた。
- 4月当初は固さもあったが、中学年なこともあり比較的慣れは早かったと思う。
- 春先は子どもたちも落ち着きがなく、慌ただしい日々だった。徐々に落ち着いてきていると思う。
- 学校に慣れ、楽しく過ごすことができるようになった反面、人数が増え、人と関わるのが苦手な児童はつらそうだった。人と関わるのが好きな児童は人間関係が広がり、楽しそうだった。
- 両校からそれぞれのカラーを持って集まった児童が、互いの良さや個性を受け止め、落ち着いた生活を送ることができるようになってきている。児童自らがつくる石山緑小学校としての文化も培われつつある。
- 人数の多さにも慣れてきた。
- 物理的な環境、生活リズム、人間環境などにも慣れて落ち着いてきた子が多い。一方で、人数が増えたことで不安が多くなった子もいる。
- 開校当初は、校舎が新しく、友だちも増えたため、休み時間に浮足立った様子が見られたが、徐々に落ち着きが見られるようになった。
- 4月当初は落ち着きない様子も見られたが、今はその様子がなくなってきた。整列の仕方や話の聞き方など「集団」でできるようになってきた。
- 開校当初は、環境や仲間に対しての戸惑いが感じられたが、現在はかなり慣れている。
- 生活や授業中の雰囲気については、もっと落ち着きを望むが、それが統合によるものなのかはわからない。
- グラウンドの問題は大きく、身体を動かす場所がないのは子どもにとってもつらいことだった。

## 指導や学校運営に関すること

- 場面や状況を見て、考えて行動する必要を感じた。
- 個々に慣れるスピードは様々な前提で「交わる」ことを目標とするのではなく、「自分のやりたい学習に向かっている中で自然とつながりが生まれた」という流れをつくることができた。
- 大人が必要以上に意識しあわないことが重要。
- 開校前年度の1年間で、もっとつながりをつくってあげることが、スムーズに統合に向かう姿勢につながると思う。
- 学級の座席は、出身校が違う男女…というふうに、少しでも「垣根」を低くするようにした。
- 校舎のつくりにおいて、教師から子どもの様子が把握しにくい所があり、休み時間の児童の行動把握が難しく感じる。

### 【質問3】（教員の取組等について）

石山緑小学校を開校するにあたって、開校前・開校当初から様々な取組があったことと思います。これまでの取組について、具体的にどのようなものがあり、どのように対応されたか、良かった点や今後の取組に向けた改善点などについてお聞かせください。

#### 児童への取組

- ・新しい友だちが増えることに対する意識付けに力をいれた。劣等感も優越感も持たずに子どもと一緒に新しい学校を創ってほしいと思った。
- ・施設の使い方として、「1年目の人がきれいに使うと、この後に使う人もきれいに使ってくれる」ということを何度か子どもたちに話した。
- ・新しい校歌を統合前から児童が練習し、節目ごとに歌っていたことは、「2つの学校が仲間として歩いていく」という意識を持たせることに大きく寄与していたと思う。
- ・新しい環境に戸惑いを感じる子については、事前に校内見学などを春休み中に行った。
- ・通学路変更に伴って、実際に通学路を子どもたちと歩いたり、安全マップなどを作成した。
- ・前年度から両校の交流会や、宿泊学習を合同で行うなど、児童に対する意識付けを行った。

#### 学校づくりの取組

- ・開校するにあたり、初めの1年は他の学校が当たり前のように行っている業務や行事、ルールづくりなどについて「子どもの様子を見る」というスタンスがあっても良いと感じた。慌ててルールなどをつくると、予想していないイレギュラーや穴が見つかって苦しい部分もある。時間をかけて作った方がよいものも必ずあると思う。
- ・休み時間の過ごし方や学校のきまりづくり。
- ・4月当初は子どもたちも落ち着かないので、学校ルールを徹底しても、定着に時間がかかる。ゆっくりじっくり関わる必要がある。
- ・保護者含め、学校ごとにカラーがあるため、行事を進める際に意見を集約するのが難しい。
- ・「新しい学校だから」ということにこだわりすぎないようにした。
- ・何事も保護者の理解を得るのは大切な一方で、難しさも感じた。
- ・通学路で、地域の方と協力して安全指導を行った。
- ・校区の拡大もあり、交通安全教室を2回行った。
- ・担任、担任外も一定期間下校指導にあたり、子どもの安全に関して保護者へも周知するなど意識向上を図った。

- 2校の意識を学校間で明確にすり合わせる必要があると思った。どこか一部を一緒にするだけでは不十分だった。
- 開校前後で地域とつながる学習をすることで、1年目の学校を地域に応援してもらえるように感じた。皆さん思いは色々あると思うが、子どもを育てようとする思いは皆同じだと思う。子どもが地域とつながる学びを重ねることで、地域をまきこんで新しい学校が成長できると感じた。
- 校務分掌の具体的な取組を決めた。
- 図書室や、開放図書館の開設に向けて準備した。
- 研究（授業改善）の基盤づくりや体制づくり。
- 昨年度までの積み上げがない状態から作るため、スタートに時間を要した。
- それぞれの学校で行ってきた研究事業を繋げようと考えたが、なかなか難しいものがあった。
- バス通学になる児童と一緒にバスに乗車し、見守り活動を行った。
- 開校前年度の3学期から、開校に向けた打合せを何度も行った。
- 保護者からの問合せの対応などが増えた。
- 開校に向けての子どもたちの引継ぎ業務、開校式・春先の行事・委員会クラブ活動・親睦会・校務分掌などの計画、運営、創設、立ち上げなど、とても忙しかった。
- 学年や学級運営の共通理解を教員間で図った。
- PTAなど、元の学校の色を残すのではなく、新たなものを学級・保護者・地域で創り上げるという方向で関わるよう心掛けた。

### 事務的な取組

- 両校からどの設備や物品をもっていくか、文書等をどのようにまとめるか、など事前に話し合っていていき、石山緑小への引越しに間に合うように準備した。
- 新設校に持って行く物品の把握・扱いについて、中心となって進める人を早い段階で明確にした方が、処分や移動の判断があいまいにならずに進めることができる。
- 開校、閉校業務は思っている以上に大変。
- 校内の備品、教材、教具などの整備が大変だった。
- 開校にあたって、校内の物品の整理や廃棄などでかなりの労力と時間を要した。
- 初年度に購入する物品の選良・見積・発注・受領・確認と作業が多々あり準備が非常に難しい。せめて、共通する最低限の物品については、ひな形などがあるとスムーズな作業になったと思う。この作業に時間が取られ、休み返上で準備した。大変だった。

#### 【質問4】（その他）

質問2・3のほか、学校統合についてご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- 年度末に何度も開校の打合せで集まるのは辛いものがあった。遠方から来る先生方はなおさらではないか。
- 地域保護者の方から、新年度の大変な時にたくさん助けていただいた。それが無かったら立ち行かなかったと思う。
- 新設校の業務内容があまりにも多くならないよう、ICTの活用など、業務軽減について、今後工夫していけると良い。
- 統合により、総合的な学習の時間など、カリキュラムがゼロスタートになり大変だった。
- 制約はあると思うが、教員・児童ファーストの施設にしてほしい。
- 教室のスライド式のドアがよい。今後もドアが閉じられる教室が増えるとよい。
- グラウンドが使えない状態は、子どもたちの活動（運動量確保）を考えるとかなりつらい。
- 単級のまま学年が上がっていくよりは、たくさんの人たちと触れ合える良さがある。一方で統合と直接関係はないかもしれないが、1学級あたりの人数は減らした方がよい。
- 自分の学校の業務をしながら、新設校の準備をするのは負担が大きい。開校事務専任の職員が配置されるとよい。
- 統合前の旧学校の先生方が取り組んでいただいたおかげで、4月のスタートがとてもスムーズだった。